

秋葉区 区ビジョンまちづくり計画

計画年度

令和5年度 から 令和12年度
(2023年度) (2031年度)



アキハスム
プロジェクト





秋葉区役所庁舎



さつきちゃん



ゆうたくん

目 次



はじめに	-----	P.4
計画の構成	-----	P.4
各区のすがた	-----	P.6
区におけるまちづくりの方向性	-----	P.8
区ビジョン基本方針(抜粋)	-----	P.10
第一章 秋葉区の概要	-----	P.11
1、地勢		
2、歴史		
3、自然		
4、人口		
5、土地利用		
6、交通		
第二章 区ビジョンまちづくり計画 体系図	-----	P.15
第三章 秋葉区の現状と課題とまちづくりの方針	-----	P.17
第四章 アキハスムプロジェクト	-----	P.37



はじめに

秋葉区区ビジョンまちづくり計画は、新潟市総合計画の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取り組みと、実施計画に相当する具体的な取り組みを示した秋葉区のまちづくり計画です。

計画期間は、令和5年度から令和12年度までの8年間とします。

ただし、実施計画は、取り組みの実施状況や社会・経済状況の変化などに対応するため、2年ごとに策定し進捗管理を行います。

計画の構成

【新潟市総合計画とは】

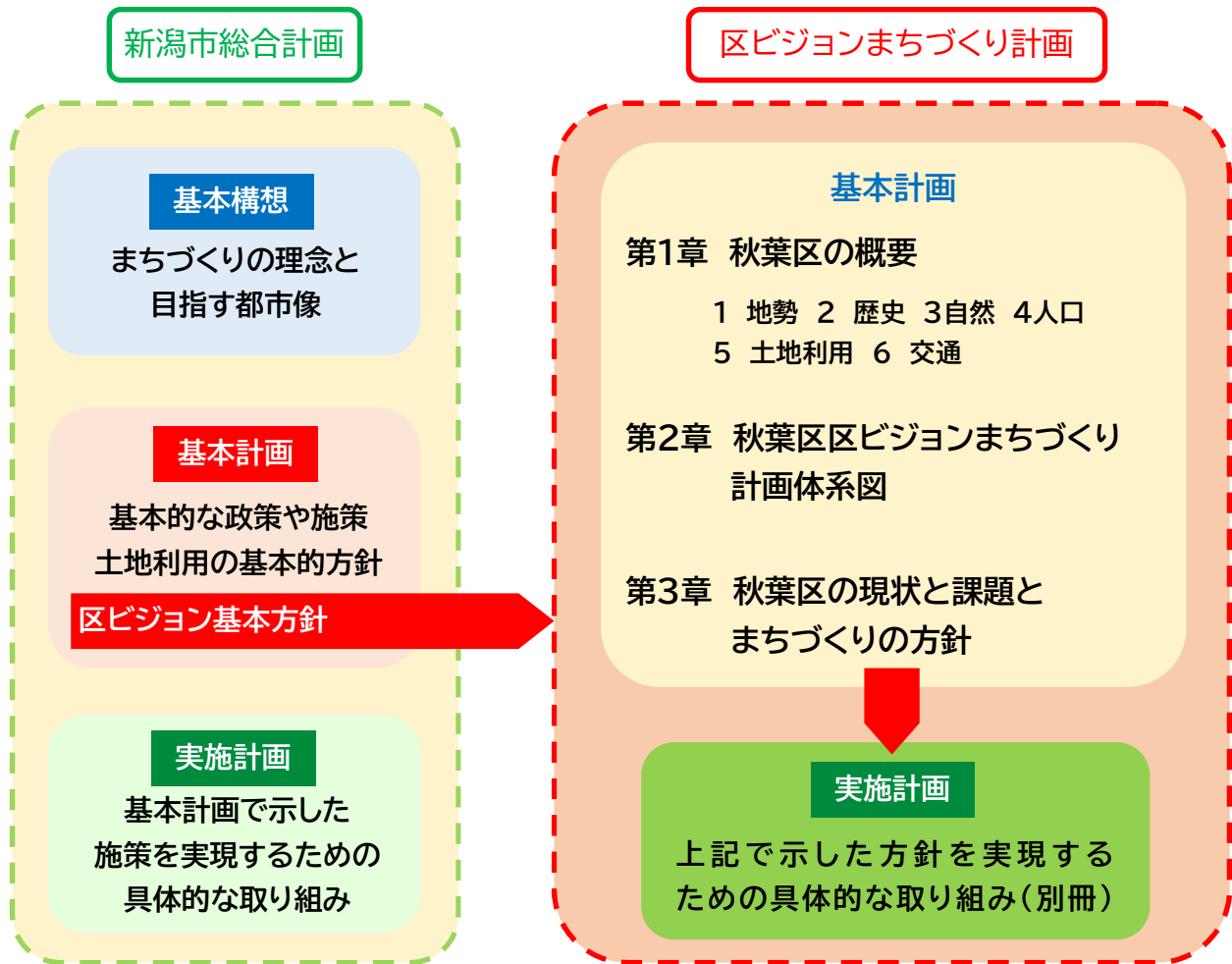
- 新潟市が目指すまちづくりのあり方を示すもので、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。区ビジョンまちづくり計画の上位計画です。
- 「基本構想」「基本計画」は、令和5年度から8年後の令和12年度までを計画期間とし、新潟市の目指すまちづくりの方針と、その実現に向けた政策と施策について記載するものです。また、施策の実現に向けた具体的な取り組みを掲載する「実施計画」は、計画期間の中間である令和8年度に必要な見直しを行う予定です。

【区ビジョン基本方針とは】

- 秋葉区の将来像や目指す方向性などを示すものです。
- 新潟市総合計画の「基本計画」の一部として策定されます。
- 秋葉区自治協議会で検討・審議し、新潟市議会の議決を経て策定しました。

【区ビジョンまちづくり計画とは】

- 「基本計画」と「実施計画」で構成され、うち「基本計画」は、区ビジョン基本方針を踏まえ、より具体的な取り組みの方向性を示すものです。
- 計画期間は、令和5年度から令和12年度までの8年間となります。構成は、「第1章 秋葉区の概要」「第2章 秋葉区区ビジョンまちづくり計画の体系図」「第3章 秋葉区の現状、特性と課題／まちづくりの方針・取り組み」となっています。
- 「実施計画(別冊)」は、2年ごとに策定し、進捗管理を行っていきます。



【SDGs(持続可能な開発目標)とは】

- 2015年9月開催の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、よりよい未来をめざすための2030年までの世界共通の目標「Sustainable Development Goals」の略称です。
- 新潟市総合計画の基本構想に掲げた「持続可能なまちづくり」という方向性は、まさにSDGsにおける持続可能な開発(将来世代のニーズに応える能力を損ねることなく、現代の世代のニーズを満たす開発)の考え方と一致しています。
- 新潟市総合計画においても「経済」「社会」「環境」の3側面の調和など、SDGsの基本的な考え方を意識して、それぞれの政策・施策を推進することとしています。
- 全ての政策分野及び行財政運営において、市民・民間事業者・国・県・周辺市町村など多様な主体とのパートナーシップを活かした施策推進を重視していきます。



各区のすがた

項目		新潟市全体	北区	東区	中央区	
人口	総数	令和2年人口(人)	789,275	72,804	134,446	180,345
		令和27年推計人口(人)	631,510	55,285	100,674	160,995
	15歳未満	令和2年人口(人) 割合(%)	91,224(11.6)	8,195(11.3)	15,867(11.8)	19,599(10.9)
		令和27年推計人口(人) 割合(%)	60,835(9.6)	5,692(10.3)	9,988(9.9)	16,084(10.0)
	15~64歳	令和2年人口(人) 割合(%)	463,605(58.7)	41,301(56.7)	79,308(59.0)	112,981(62.6)
		令和27年推計人口(人) 割合(%)	317,625(50.3)	28,700(51.9)	52,253(51.9)	87,623(54.4)
	65歳以上	令和2年人口(人) 割合(%)	234,446(29.7)	23,308(32.0)	39,271(29.2)	47,765(26.5)
		令和27年推計人口(人) 割合(%)	253,050(40.1)	20,893(37.8)	38,433(38.2)	57,288(35.6)
		令和2年単身高齢者数(人)	35,041	2,644	6,643	10,409
		65歳以上に占める単身高齢者数の割合(%)	14.9	11.3	16.9	21.8
	人口動態	年間増減(人)	-5,024	-779	-1,129	-552
		うち自然動態(人)	-4,310	-509	-632	-737
うち社会動態(人)		-714	-270	-497	185	
世帯	世帯数(世帯)	331,272	27,418	57,491	90,860	
	1世帯当たりの人員(人)	2.4	2.7	2.3	2.0	
	核家族の割合(%)	53.6	56.6	56.3	45.2	
	単独世帯の割合(%)	35.1	27.5	33.8	48.6	
	3世代世帯の割合(%)	7.1	10.5	5.9	3.0	
面積	面積(km ²)	726.28	107.61	38.63	37.75	

農業	農家戸数(戸)	9,675	1,414	282	174
	基幹的農業従事者数(人)	10,379	1,465	303	197
	うち65歳以上の割合(%)	67.8	68.6	62.7	59.4
	経営耕地面積(ha)	28,463	3,991	713	384
工業	事業所数(所)	949	156	176	100
	従業者数(人)	37,478	6,945	8,725	1,656
	製造品出荷額等(億円)	11,469	3,405	2,962	244
商業	事業所数(所)	7,985	542	1,138	2,831
	従業者数(人)	68,805	4,292	11,339	23,382
	年間商品販売額(億円)	32,319	1,408	5,265	13,394

(出典)

人口:国勢調査(R2)、推計値(新潟市全体)は国勢調査(R2)および人口動態統計特殊報告(H25~H29)から算出した新潟市独自推計値
推計値(各区)は新潟市全体の推計人口を、新潟市独自推計である「各区将来推計人口(H30)」の男女別5歳階級別の構成比から算出したもの

人口動態:新潟県人口移動調査(R3)

世帯:国勢調査(R2)

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目		
67,972	75,069	43,437	160,656	54,546	令和2年人口(人)	総数	人口
51,875	55,965	30,282	140,380	36,054	令和27年推計人口(人)		
8,722(12.8)	9,080(12.1)	4,926(11.3)	19,178(11.9)	5,657(10.4)	令和2年人口(人) 割合(%)	15歳未満	
4,521(8.7)	5,548(9.9)	2,594(8.6)	15,115(10.8)	2,898(8.0)	令和27年推計人口(人) 割合(%)		
38,653(56.9)	41,904(55.8)	24,761(57.0)	94,898(59.1)	29,799(54.6)	令和2年人口(人) 割合(%)	15~64歳	
25,469(49.1)	28,772(51.4)	13,879(45.8)	77,888(55.5)	16,035(44.5)	令和27年推計人口(人) 割合(%)		
20,597(30.3)	24,085(32.1)	13,750(31.7)	46,580(29.0)	19,090(35.0)	令和2年人口(人) 割合(%)	65歳以上	
21,885(42.2)	21,645(38.7)	13,809(45.6)	47,377(33.7)	17,121(47.5)	令和27年推計人口(人) 割合(%)		
2,431	2,987	1,255	6,735	1,937	令和2年単身高齢者数(人)	65歳以上に占める 単身高齢者数の割合(%)	
11.8	12.4	9.1	14.5	10.1			
-131	-547	-562	-604	-720	年間増減(人)	人口動態	
-319	-500	-373	-722	-518	うち自然動態(人)		
188	-47	-189	118	-202	うち社会動態(人)		
24,891	28,003	14,922	69,006	18,681	世帯数(世帯)	世帯	
2.7	2.7	2.9	2.3	2.9	1世帯あたりの人員(人)		
61.9	60.1	56.9	53.8	56.5	核家族の割合(%)		
23.5	24.1	21.4	36.7	20.7	単独世帯の割合(%)		
9.6	10.2	14.9	5.6	16.0	3世代世帯の割合(%)		
75.42	95.38	100.91	94.00	176.57	面積(km ²)	面積	

1,319	1,192	1,828	1,170	2,296	農家戸数(戸)	農業
1,403	1,129	2,261	1,504	2,117	基幹的農業従事者数(人)	
70.2	70.9	64.4	61.0	74.1	うち65歳以上の割合(%)	
3,087	3,336	5,596	3,650	7,709	経営耕地面積(ha)	
111	76	124	68	138	事業所数(所)	工業
6,058	2,400	5,803	1,487	4,404	従業者数(人)	
1,405	567	1,692	339	854	製造品出荷額等(億円)	
743	604	442	1,154	531	事業所数(所)	商業
6,576	4,606	2,925	12,519	3,166	従業者数(人)	
2,860	1,068	818	6,826	680	年間商品販売額(億円)	

面積:全国都道府県市区町村別面積調(R4.1)

農・工・商業:2020農林業センサス、工業統計調査(R2)、経済センサス(H28)

(※1)推計値(新潟市全体)と推計値(各区)は、基準としているデータが異なるため、
区別、年齢別の区別人口の合計値は新潟市全体の年齢別人口と一致しない

区におけるまちづくりの方向性

新潟市はこれまでの間、分権型政令市を目指し、市民生活に密着した行政サービスはできるだけ区役所が行うことができるよう、8つの区役所を市政のメインステージと位置づけ、区が持つ権限や財源の強化を図ってきました。

また、地域のことを地域自らが考え、自らが行動できることを目指し、自治基本条例の制定や、区自治協議会の設置により、地域の特性を活かした自治を進めてきました。

8つの区は、それぞれの地域を形づくってきた歴史と固有の文化、地域資源や風土に合った産業など、様々な特色と魅力にあふれています。それぞれの区が持つ特色と魅力が「新潟市」という集合体として一つになることで、「都市と田園の調和によりもたらされる暮らしやすさ」をはじめとした、新潟市の「強み」を生み出しています。

人口減少時代に躍進する「活力あふれるまちづくり」と「持続可能なまちづくり」を進め「田園の恵みを感じながら心豊かに暮らせる日本海拠点都市」を実現するためには、区の特徴を活かしたまちづくりを推進するとともに、区を超えた連携や多様な主体との協働を進め、その魅力を発展させ続けていくことが重要です。

これまで以上に区の特徴を前面に押し出しながら、地域の特性を活かした活力と魅力あふれる区づくりを進められるよう、必要な予算や権限を持つ自治性の高い区役所を目指し、まちづくりの多様な主体と一体となって区政を推進していきます。

併せて、安心して暮らせる社会、持続可能な住民自治の仕組みをつくりあげていくため、市民や地域と進める住民自治を一層推進していくことで、分権型の市政運営を行います。

こうした考えのもと、区民のご意見をお聞きしながら、区自治協議会と区役所が協力・連携して策定した、区におけるまちづくりの基本的な方針となる「区ビジョン基本方針」を、基本計画の一部として掲げます。

また、「区ビジョン基本方針」に、「区の将来像」や「目指す区のすがた」を示し、区民と意識を共有するとともに、「区の特徴」を掲げ、区が持つ魅力や強みを活かした、個性あふれるまちづくりを進めていきます。

各区においては、「区ビジョン基本方針」に基づき、まちづくりの具体的な取組を示す「区ビジョンまちづくり計画」を策定し、区民と一緒に取組を推進していきます。



秋葉区区ビジョン 基本方針



AKIHA
SUMU
PROJECT

アキハスム
プロジェクト



区の将来像

里山と水に囲まれて 花と緑あふれる 笑顔咲きそろうまち

環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

- 産学公民が連携して、里山を拠点とした人と人とのつながりや学習環境の充実と健康づくりの取り組みを通して、多くの区民が集い、里山とまちが一体となった賑わいを創出し、愛着と誇りを持てる秋葉区ならではの里山文化※の創造を目指すとともに魅力を発信していきます。
- 人々にやすらぎと潤いをもたらす緑豊かな里山や河川などの恵まれた自然環境を次世代に引き継ぐべき貴重な財産ととらえ、人と自然が調和した美しい景観の保全と活用を図ります。
- 多様な主体がそれぞれの立場で、主体的にかつ協働しながら、環境に配慮したライフスタイルへの転換に取り組み、まちづくりと一体となった脱炭素※社会の構築を推進するとともに、再生可能エネルギー※システムの構築を図ります。

歴史と個性を活かすまち

- 里山や鉄道、石油、花き・花木、町屋など、歴史ある文化や宝物を地域との協働により、内外へ積極的に情報発信するとともに、受入体制の充実を図ることで、移住・定住・関係人口※を増やし、区の個性を活かした観光交流の盛んなまちを目指します。
- 秋葉区固有の文化の継承と創造による発展と、スポーツ活動の振興に努め、健康で心身ともに豊かに過ごせるまちを目指します。

やさしさがあふれる楽しく元気なまち

- 住民・地域・行政・学校が地域で連携・協働する、活気あふれる、楽しく、元気な、まちを目指します。
- 持続可能なまちづくりのため、区民との協働による、しなやかで柔軟な防犯・防災の地域づくりに努め、地域で助け合う安全・安心なまちを目指します。
- お互いを思いやる心、地域でともに助けあい支えあう心、自然にも人にもやさしい心を育み、誰もが笑顔ではつらつと暮らせるまちを目指します。
- 秋葉区の特徴を活かしながら、多様な主体が協働しながら、子育て・教育環境を創り、次世代を育み続けたいと思えるまちづくりを目指します。

可能性を生み出し・育て・活かすまち

- 秋葉区の食材・人材などの恵まれた地域資源を活かし、農商工・産学官の連携による企業誘致を目指すとともに、次世代に向けた新しい技術や産業を生み出し、新たな可能性が育ち定着するまちづくりを進めます。
- 全国屈指の花き・花木の園芸産地の価値を発信するとともに、地域の魅力的な農産物のブランド化の推進や新技術の導入、担い手の育成に取り組むことで安定した農産物の供給を目指します。
- 地域の暮らしや教育、産業など様々な分野でデジタル化を推進し、全ての人々が孤立することなくメリットを享受できるまちを目指します。
- 秋葉区ならではの魅力の発信を強化し、働き方の変化による地方暮らしへの関心の高まりをとらえ、移住の促進と関係人口の創出を図ります。

※秋葉区ならではの里山文化 … 里山とまちが一体となった地域性や関連施設、里山活動団体等の取り組み。

※脱炭素 … 地球温暖化の原因となるCO₂などの温室効果ガス排出を防ぐために、石油や石炭などの化石燃料から脱却すること。

※再生可能エネルギー … 太陽光や風力など、永続的に利用することができる再生可能エネルギー源を利用することにより生じるエネルギーの総称。

※関係人口 … 移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々。

第一章

秋葉区の概要



AKIHA
sumu
PROJECT

アキハスム
プロジェクト



(1)地勢

新潟市の南東部に位置している秋葉区は、北は新潟市江南区に、東は阿賀野市に、南は五泉市、田上町に、西は新潟市南区に隣接しています。

秋葉区は、新潟市8区の中で西蒲区、北区、南区に次ぐ面積(95.38km²:令和4(2022)年)で、全市域の約13%を占めています。



秋葉山から市街地を望む

(2)歴史

現在の秋葉区は、中世「金津保(かなづのほ)」という公領の範囲内でした。江戸時代になると、新発田藩・村上藩などに支配され、新田開発が進みます。また、能代川(現・新津川)沿いの新津と信濃川沿いの小須戸は、船着き場から六斎市が開かれる在郷町へと発展しました。明治12(1879)年、新津には中蒲原郡の郡役所が置かれました。

町村合併によって、現在の秋葉区は明治34(1901)年までに新津・小須戸の2町と6村になりました。阿賀浦村・満日村・荻川村と合併した新津町は、昭和26(1951)年に新津市となり、30年に金津村・小合村、32年に新関村と合併しました。平成17(2005)年に新津市と小須戸町は新潟市と合併し、19年の政令指定都市移行に伴い、旧新津市と旧小須戸町の区域が「秋葉区」となりました。

<里山と遺跡>

信濃川と阿賀野川に挟まれた秋葉丘陵は、古くから里山として人々の生活と深くつながっていました。丘陵には狩猟に使われた約2万年前の石器が点々と残され、新潟市域でも最も古い人々の営みの痕跡となっています。

秋葉区内の遺跡で最も有名なのが、国史跡「古津八幡山遺跡」です。今から2000年ほど前(弥生時代後期)、丘陵の上に濠(ほり)をめぐるせた高地性集落が営まれました。また、今から1600年ほど前には、直径60メートルと県内最大規模の円墳が築かれます。奈良・平安時代には製鉄も行われていました。



古津八幡山遺跡

「古津八幡山遺跡」は復元整備され、時代の移り変わりや東北・北陸など他地域との交流の様子などをうかがい知ることができます。

<日本一だった新津油田>

668年、「燃ゆる土と燃ゆる水」を都へ献上したと『日本書紀』に記される越の国(新潟県)。その中でも、にいつ丘陵では古くから原油や天然アスファルトが産出していました。江戸時代には真柄仁兵衛が新発田藩の許可を得て、原油の採掘を始めます。明治時代以降、新しい技術が次々と導入されることで、新津油田の産油量は飛躍的に増大し、日本を代表する油田となりました。



新津油田金津鉞場跡

新津油田での原油採掘は平成8(1996)年に終了しました。国史跡「新津油田金津鉞場跡」にあるやぐらやポンピングパワーなどの遺構は、原油を採掘して水分を切り、製油所へ送り出すまでのシステムとして、それぞれがつながり合って機能していたことを物語っています。その金津鉞場を開発した中野貫一の邸宅(中野邸記念館)は、「日本の石油王」とも称された繁栄ぶりを今に伝えています。

<花とみどりの秋葉区>

秋葉区のうち、信濃川に近い地域では江戸時代から花き・花木や果樹の栽培が盛んに行われていました。古田にある県天然記念物「八珍柿原木」は、推定樹齢300年で「おけさ柿」や「庄内柿」のルーツです。また、大正8(1919)年には、小田喜平太が日本で初めて商業用の大規模なチューリップの球根栽培を始めました。新潟市はチューリップの一大産地となり、チューリップは新潟市の市花に制定されています。

区内には新潟県立植物園をはじめ、花き園芸に関する施設が多くあります。新潟市が日本一の生産量を誇るアザレア・ボケや、クリスマスローズなど色鮮やかな花々がまちの四季を彩っています。



アザレア

<鉄道のまち新津>

「西の米原、東の新津」とも称される「鉄道のまち新津」。その歩みは、明治30(1897)年の北越鉄道(現・信越本線)開通から始まります。新津駅・矢代田駅は、その中間駅として開業しました。その後、岩越線(現・磐越西線)や新発田線(現・羽越本線)が開業します。3路線が乗り入れる日本海側の鉄道輸送の要衝となった新津には、機関区(現・JR東日本新津運輸区)や国鉄の工場(現・株式会社総合車両製作所新津事業所)が置かれました。現在、秋葉区内には7つの駅があります。

また、平成11(1999)年には、新津第一小学校の校庭で保存されていた蒸気機関車「C57-180」が地元の要望によって復活し、「SLばんえつ物語」として磐越西線で定期運行しています。



SLばんえつ物語



旧新津機関区

(3)自然

秋葉区は、東に阿賀野川、西に信濃川、北には小阿賀野川、区の中央には能代川・新津川が流れ、南には秋葉丘陵が広がる自然豊かな区です。

広大な秋葉丘陵には、いくつもの公園や遊歩道が整備されており、四季折々に森林浴やバードウォッチングなど市民の憩いの場として親しまれています。

特に秋葉公園は、秋葉丘陵の中でも代表的な公園です。眺望のきく丘陵地を生かして、休憩場所、展望台、アスレチック、運動広場、動植物観察、キャンプ場など野外活動のための魅力的な施設がたくさんあり、これらは遊歩道などによって結ばれ、広い範囲を自由に散策できるようになっています。



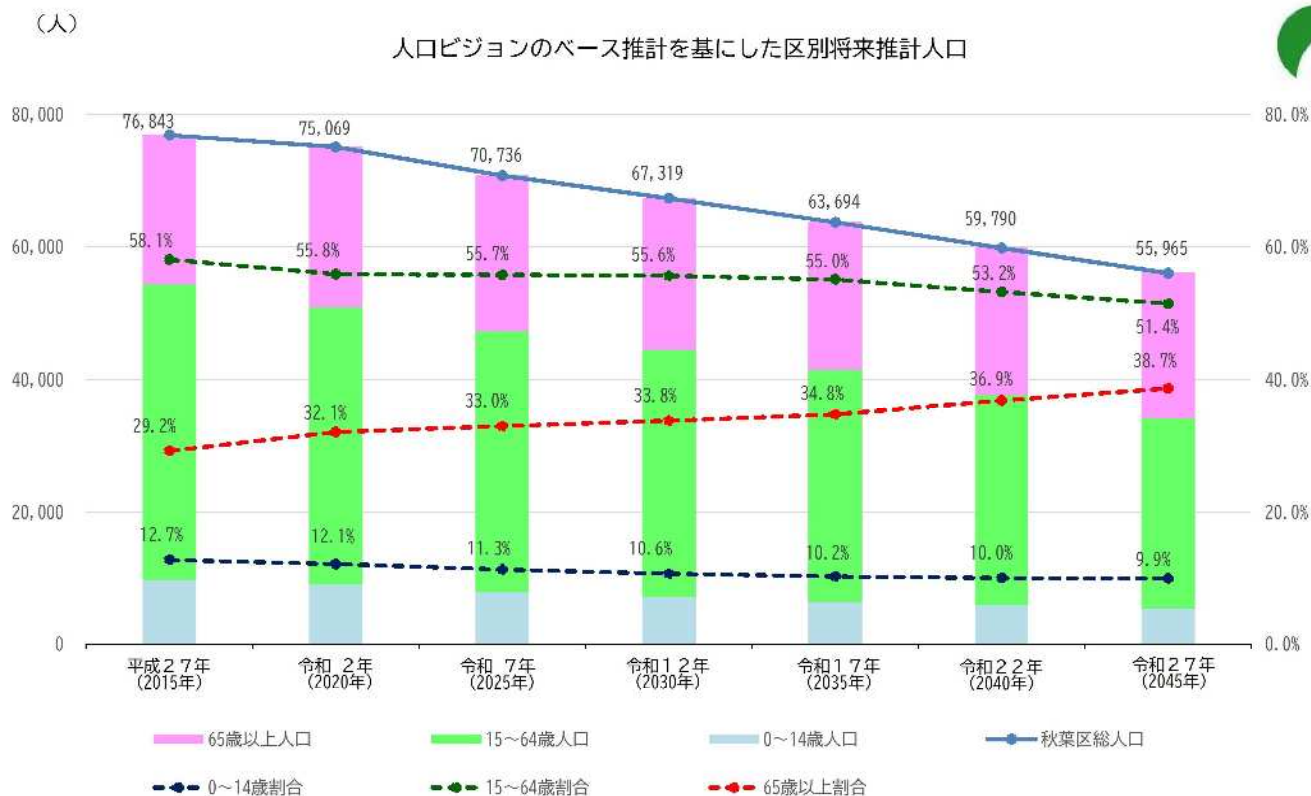
白玉の滝

(4)人口

令和4年(2022)年3月末現在の秋葉区の人口(住民基本台帳人口)は、75,642人です。

秋葉区は、8区の中で4番目の人口規模で、65歳以上の老年人口は24,408人。高齢化率が32.1%と高くなっています。

平成22年の国勢調査の結果を基準として将来の人口を推計すると、令和7年(2025年)には約73,000人、令和17年(2035年)には約68,000人と約1万人の減少が見込まれ、その内、年少人口・生産年齢人口が減少し続けると見込まれています。



※推計値は5歳階級毎に按分計算し積み上げているため、年齢3区分の人口と区全体の人口が合わない場合があります。

(5)土地利用

用途別の土地利用面積割合では、田畑と山林で6割以上を占めています。

人口密度は新潟市8区の中で高い方から4番目(952人)で、全市の人口密度(1,073人)よりも低くなっています。

(6)交通

国道403号が南北に、国道460号が東西に通っているほか、新潟と福島を結ぶ磐越自動車道の新津インターチェンジ、新津西スマートインターチェンジがあります。

鉄道は、区内に7つの駅が設置されており、新津駅ではJR信越本線、羽越本線と磐越西線が交わっています。磐越西線を走る「SLばんえつ物語」が、4月~11月の週末を中心に運行しています。

バスは新津駅を中心に市中心部、南区や五泉市方面などへ運行され、区民の足として、秋葉区区バスを運行しています。



区バス

第二章

秋葉区区ビジョンまちづくり計画 体系図



AKIHA
sumu
PROJECT

アキハスム
プロジェクト



秋葉区 区ビジョン基本方針

秋葉区 区ビジョンまちづくり計画

将来像

目指す区のすがた

目指す区のすがた実現に向けた取り組み

里山と水に囲まれて
花と緑あふれる
笑顔咲きそろうまち

I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

- (1) 愛着と誇りを持てる里山文化の創造
- (2) 人と自然が調和した美しい景観の保全
- (3) 脱炭素社会の構築

II やさしさがあふれる
楽しく元気なまち

- (1) 産学官、地域が連携したまちなか活性化
- (2) 安心・安全なまちづくり
- (3) 人がつながりともに支えあうやさしいまち
- (4) 秋葉区の個性を活かして次世代を育むまち
- (5) 交通網の整備と持続可能な地域公共交通の確保
- (6) 協働によるまちづくり

III 歴史と個性を活かす
まち

- (1) 歴史ある文化や宝物の積極的な情報発信
- (2) 個性を活かした交流のあるまちづくり
- (3) 文化の継承と創造による文化活動の振興
- (4) 健康で豊かなスポーツ活動の振興

IV 可能性を生み出し・
育て・活かすまち

- (1) 産業の振興
- (2) 全国屈指の園芸産地の魅力発信と環境にやさしい安心・安全な農作物の供給
- (3) 新潟薬科大学、商店街などとの連携
- (4) 関係人口の拡大と移住促進

第三章

秋葉区の現状と課題と まちづくりの方針



AKIHA
S U M U
P R O J E C T

アキハスム
プロジェクト



目指す区の姿



I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

(1) 愛着と誇りを持てる里山文化の創造

現状と課題

- 市民・企業・ボランティア・里山活動団体などとの協働により森林整備を行うとともに、担い手育成に努め、里山環境の保全を推進してきました。今後は、里山活動団体相互の連携強化と活動のさらなる活性化や森林整備を進めるとともに、森林所有者の参画も求められます。
- にいつ丘陵の公有地化を進め、市有林にかかるスギ人工林の間伐を実施することで、森林整備を行ってきましたが、秋葉区の森林面積の90%を占める個人所有林を含めた一体的な整備により、里山の再生を行う必要があります。



菩提寺山遊歩道

- 「にいつ丘陵周辺マップ」の設置、国の史跡に指定された「新津油田金津鉱場跡」の遺構の保全・整備、「里山ビジターセンター」の整備や情報発信などを進めてきました。今後は、里山活動団体との連携、にいつ丘陵に隣接する歴史・文化施設などと連携し、より一層の魅力発信に努める必要があります。



まちづくりの方針

- ◆区民との協働により、里山の環境保全や美しい「里山」の景観の保全・再生を図ります。
- ◆秋葉公園再整備基本構想に基づき、秋葉公園のリニューアルを行い、公園の活性化や公園利用者の利便性の向上を図ります。
- ◆里山活動団体や関連施設等との連携を進め、にいつ丘陵の情報発信体制づくりを推進します。また、里山ビジターセンターを拠点として、里山の魅力を案内するガイドによる情報発信を行うとともに、次世代を担う人材育成を図ります。
- ◆団体・施設等との連携により、にいつ丘陵の特色を活かした活動・イベントにより、魅力的な体験プログラムの展開を図って行きます。
- ◆里山を持続的に利活用していくために、保全活動の担い手不足や高齢化対策も含め、必要な協働体制の支援を図ります。
- ◆健康や運動が重視・推進される中、里山の環境を活かしつつ個々の体力や志向に応じた多様な里山ならではの癒しの効果を活用を図ります。
- ◆にいつ丘陵では、多種多様な関連施設が存在するとともに、里山活動団体等が多様な取り組みを続けていて、これら関連施設同士の回遊性を高めることで里山のにぎわいを増やします。
- ◆「体験型の学びの場」や「子育ての場」、「健康づくりの場」や「観光交流の場」として里山の活用を進めます。



秋葉山「秋葉小夏」

目指す区の姿

I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

(2) 人と自然が調和した美しい景観の保全

現状と課題

- 阿賀野川水辺プラザを安らぎの場や交流の場としての利用促進を図るため、阿賀野川フェスティバルを開催し、広く周知を図りました。また、信濃バレー親水レクリエーション広場、雁巻緑地・信濃川親水緑地公園と合わせて、環境整備を継続し、良好な水辺空間を維持していく必要があります。
- 新津川、能代川及び小阿賀野川の遊歩道の環境整備を継続し、地域の身近な自然環境を維持していく事が求められています。



阿賀野川



新津川除草クリーン作戦

- 地域との協働による新津川除草クリーン作戦を実施し、環境の保全・美化を図りました。これにより、まちなかでの豊かな地域資源の存在が区内外から認識され、新津川を核とした交流が活発になりました。
- 区民との協働により、清掃活動や不法投棄防止活動、ごみのぼい捨て禁止等啓発活動、ごみの正しい分別と減量化などに取り組んできました。今後も引き続き環境に配慮した「リデュース」「リユース」「リサイクル」の「3R(スリーアール)活動」が求められています。



- 原油の分離回収を行うとともに、突発的な原油噴出事案には油吸着材などで対応し、水路への原油流出防止と公共水域の水環境保全に努めてきましたが、原油の自噴が散発している地区があることから、引き続き適切な対応が求められています。



朝日沈砂池

- 下水道や合併処理浄化槽の整備により、衛生的で快適な市民生活を確保してきました。今後、総合的な污水处理の方針により、公共下水道施設の新規整備が令和7年度頃までで終了します。下水道接続率も約9割となっていますが、更に下水道への接続に理解が得られるよう、広報に努める必要があります。

目指す区の姿

I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

(2) 人と自然が調和した美しい景観の保全



まちづくりの方針

◆区民との協働により、里山の環境保全や美しい「里山」の景観の保全・再生を図ります。(再掲)

◆秋葉公園再整備基本構想に基づき、秋葉公園のリニューアルを行い、公園の活性化や公園利用者の利便性の向上を図ります。(再掲)



秋葉湖

◆区民との協働により、新津川、能代川および小阿賀野川の遊歩道の利用環境を整備し、利用者の増加と健康づくりを推進します。



新津川遊歩道



秋葉山キャンプ場

◆信濃川親水緑地公園や阿賀野川水辺プラザなど水辺空間の保全と利用促進を図ります。

◆快適な生活環境を確保するため、ばい捨て等及び路上喫煙の防止に関する条例の推進と、ばい捨てをはじめとする不法投棄防止の啓発に努めます。

◆さらなるごみの減量に向け、資源物などの分別徹底と、廃棄物の発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)の3R(スリーアール)活動を推進します。

◆河川など公共用水域の水質を保全するため、自然に湧出する原油の流出防止に努めます。

◆水質保全を図る下水道への接続を促進するため、助成金制度等の広報に努めます。

目指す区の姿

I 環境に配慮した潤いとやすらぎのあるまち

(3) 脱炭素社会の構築

現状と課題

- 秋葉区の豊かな自然環境を良好に維持し、次世代に引き継ぐ責務があることから、再生可能エネルギーの導入や環境学習の実施など、脱炭素型社会の実現に向けた取り組みを進めてきました。「脱炭素型社会」を構築するには、環境に配慮したライフスタイルへの転換を図るとともに、再生可能エネルギー導入の加速化や脱炭素型社会に向けた意識の醸成が必要です。



秋葉区役所庁舎

まちづくりの方針

- ◆市民と協働した取り組みにより、環境に配慮したライフスタイルへの転換を目指します。
- ◆太陽光発電など再生可能エネルギーの導入促進や電気自動車の活用、秋葉区が保有する資源の活用などにより、脱炭素型・循環型・自然共生型社会の実現に向け、秋葉区が率先して行動するまちを目指します。
- ◆脱炭素型社会の実現に必要な人づくりを行うため、学校などにおける環境教育・環境学習の推進を図ります。
- ◆再生可能エネルギーを活用し、自立分散型の電源として、避難所の非常電源の確保など災害対応力の向上を図ります。
- ◆脱炭素社会構築の取り組みと秋葉区の社会的課題を解決する取り組みを結びつけ、新たな産業や付加価値を生み出し、まちの活力につなげます。さらに、そのプロセスの中に、地域内で資金を循環させ地域の活力向上を目指します。



目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(1) 産学官、地域が連携したまちなか活性化

現状と課題

- 新津駅東口の「新潟薬科大学新津駅前キャンパス」が設置され、学生がまちなかで活動する取り組みが本格化しました。また、令和5年度に医療技術学部と看護学部が新設されることから、さらなる活気が期待されます。今後はこれまでに培った産学官の連携を基に、まちなか活性化に資する新たな取り組みも検討していく必要があります。



新潟薬科大学新津駅東キャンパス



まちづくりの方針

- ◆まちなかキャンパスの機能を活かし、大学、商店街、地域が連携した、活気に満ち溢れたまちづくりを推進します。
- ◆まちなかの賑わいを創出するためイベントの開催を通じて、新潟薬科大学学生など、若者との協働を推進します。
- ◆学生が区内で活動する機会として、今後も新潟薬科大学のカリキュラムである「キャリア形成実践演習」を支援、協力するため、商工会議所、商店街などの団体と連携していきます。



まちなかイベントへの大学生参加



大学生による体験講座



大学生参加の新津川除草クリーン作戦

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(2) 安心・安全なまちづくり

現状と課題

- 自主防災組織の結成促進に努めましたが、未結成地域の解消には至っていません。また、より一層の地域防災力の向上のため、その組織力の強化が求められています。
- 災害時に支援が必要な障がい者や高齢者が登載されている「避難行動要支援者名簿」を、支援協力が可能な自主防災組織などに配布しています。しかし、名簿未配布地域があることから、その解消に向けて、引き続き連携・協力を進める必要があります。
- 「総合ハザードマップ」を配布するなど、区民への防災情報の周知を行いました。また、緊急時の情報伝達手段の多様化を図り、迅速かつ正確な情報伝達の実現に努めています。



自主防災組織訓練

- 指定避難所の耐震化はすべて完了し、避難所の備蓄物資も順次整備して、避難所の環境整備を図ってきました。今後は、避難所の運営を円滑に実施するため、地域と協力した運営体制の強化が必要となっています。
- 洪水時の対策として堤防高の確保ともぐり橋の解消を進めるため、国と連携し信濃川の小須戸橋架替事業に着手しました。
- 排水不良個所の整備を進めた結果、市街地周辺地域にも浸水被害の軽減が図られましたが、今後も、計画的な維持管理を実施する必要があります。

- 地域の実情に合わせた浸水対策施設の整備や、浸水脆弱地域における応急対策などによる浸水軽減に努めながら、自助・共助を含む総合的な浸水対策を進めてきました。集中豪雨の多発や都市化の進展に伴う内水氾濫の被害が増大する中、効率的な整備を推進するため、地区の状況を踏まえた計画的な施設整備を進めるとともに、自助・共助の強化を図る必要があります。
- 子ども見守り隊をはじめとしたボランティア活動により、「地域の子どもは地域で守る」という意識が高まっています。今後は、地域での見守りに加え、子ども自らの判断で危険から回避できる能力を身に付ける学習の場などが必要とされています。
- 高齢者を標的にした「特殊詐欺」などの被害防止のため、警察と連携し防犯意識の啓発に努めてきましたが、被害の発生が後を絶たないため、さらなる高齢者への防犯知識普及が必要です。
- 幼児・児童・高齢者を対象に交通安全教室を開催していますが、特に高齢者の関係する交通事故の割合が増加していることから、高齢者を対象とした交通安全教育の推進が急務となっています。



交通安全街頭指導所

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(2) 安心・安全なまちづくり



まちづくりの方針

- ◆自主防災組織未結成地域の解消を図り、自主防災組織の組織力強化を進めます。
- ◆「避難行動要支援者名簿」の未配布地域の解消に努め、「地域の助け合い」による、支援の推進に努めます。
- ◆多様な手段による迅速な情報伝達に努め、誰もが必要な情報を得ることができるまちづくりを進めるとともに、区民自らによる積極的な情報収集の必要性を啓発し、防災知識の普及に努めます。
- ◆避難所運営を円滑に実施するため、地域と協力した運営体制の構築を図ります。
- ◆地域住民や保護者、警察などと連携した「子ども見守り活動」を推進するとともに、子どもが自らの判断で危険を回避できる知識や技術の習得を図ります。
- ◆子どもたちの通学路における交通安全の確保を図るため、警察などと連携した通学路の合同点検を定期的に行うとともに、必要な対策を実施します。
- ◆「特殊詐欺」などの被害から高齢者を守るため、警察と連携し、防犯意識の啓発と知識の普及に努めます。



- ◆子どもの安全確保に加えて、地域住民の避難所として学校施設の環境整備を図ります。
- ◆再生可能エネルギーを活用し、自立分散型の電源として、避難所の非常電源の確保など災害対応力の向上を図ります。(再掲)
- ◆浸水被害の軽減に向け、排水施設の維持補修を計画的に進め、ハード・ソフト一体となった総合的な浸水対策を推進します。
- ◆安全な通行確保のため、道路の維持補修を計画的に進めます。
- ◆持続可能な下水道サービスを提供するため、下水道施設の計画的な改築・更新による機能確保と、併せて大規模地震が発生した際、区民生活に及ぼす影響を最小限に止めるため、下水道施設の耐震化を推進します。

- ◆あらゆる世代に対し、交通安全意識の普及に努めるとともに、加齢に応じた望ましい運転の在り方等に係る交通安全教育等の推進や先進安全技術等の活用の啓発に努めます。



サポカー体験

- ◆大型獣などが頻繁に出没する地域特性を踏まえ、人身被害を未然に防ぐ対応策などについて、啓発に努めます。

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(3) 人がつながりともに支えあうやさしいまち

現状と課題

- 核家族化や共働き家庭の増加、近所付き合いの希薄化などが進む中、不安感や負担感を抱きながら子育てをしている親が増え、育児不安や子ども虐待の相談などが増加しています。そのため、早い段階から妊娠・出産・育児等の相談を身近で安心して出来る環境づくりに向けた取り組みが必要です。



- 秋葉区は働き盛り世代の特定健診受診率が低い傾向にあるため、受診率を向上させ、若いころから持続可能な体づくりを行う必要があります。



- 身体・知的・精神などの障がい種別を問わない総合的・複合的な相談への需要が高まっています。また、障がい者虐待や病院・施設から地域への移行、就労支援など、多様化する障がい者の福祉ニーズに対応できるよう関係機関と連携し、相談支援体制を強化する必要があります。

- 現在、秋葉区は約3人に1人が65歳以上で、市内でも高い高齢化率となっており、令和27年(2045年)には、約2.5人に1人が65歳以上となる推計が出ています。平均寿命を延伸し、いかに健康で暮らしていけるかが重要となっている中、地域全体で高齢者の在宅生活を支える生活支援サービスの重層的な提供が求められています。

- 経済的に困窮し、生活に不安を抱える人の相談が増えています。また、DV(ドメスティック・バイオレンス)などの女性に関する相談が増加する中、相談しやすい環境づくりがさらに重要となっています。

- 人口減少、少子・超高齢社会の中で、人々の価値観の変化や人間関係の多様化により、求められる福祉サービスも多岐にわたり、複雑化・複合化しています。

- 誰もが安心して健康に暮らせる地域づくりのためには、行政だけでなく、コミュニティ協議会や自治会、民生児童委員などのほか、区社会福祉協議会、地域包括支援センター、子育て支援センター、障がい者施設など、だれもが地域の一員として互いに連携し、協力することが必要です。



目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(3) 人がつながりともに支えあうやさしいまち



まちづくりの方針

- ◆地域で安心して子育てができるよう、ライフステージに応じた切れ目のない支援を行います。環境づくりと支援体制の一層の拡充・強化を図ります。



子育て支援センター

- ◆複雑化・複合化する地域課題と支援ニーズに対応するため、様々な機関と協働し包括的に支援する重層的支援体制を構築します。
- ◆地域住民が安心して快適な生活を送ることができるよう、コミュニティ協議会や自治会、民生委員児童委員など、人を支える組織と連携・協働し、年齢や性別、障がいのある人もない人も、誰もが思いやりを持ち、互いの人権を尊重しながら安心して暮らせる地域づくりを推進します。
- ◆学校開放などにより地域活動の場としての活用を進めます。
- ◆子どもの誰もが、人格と人権を持った一人の人間として尊重されるよう、温もりある支援を行います。
- ◆子どもから高齢者までの全世代を対象に、地域や関係機関と協働しながら食事や運動などをテーマとした健康づくりに取り組むなど、いきいきと暮らすためのからだづくりを推進します。
- ◆関係機関と協力しながら障がい者が地域で安心して暮らせるための環境づくりや相談支援体制の強化、就労支援の充実を図ります。
- ◆高齢者があらゆる世代の人たちと一緒に楽しく集い、仲間づくりをできる場が確保されるよう、人が集い交流し合う拠点づくりを支援し、住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域全体で支え合うネットワークづくりを進めます。
- ◆経済的に困窮し、生活に不安を抱える人やDV(ドメスティック・バイオレンス)被害者の相談、女性に関する相談など、様々な困りごとについて、相談窓口を周知し、相談しやすい環境づくりに努めます。



フレイル予防教室

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(4) 秋葉区の個性を活かして次世代を育むまち

現状と課題

- 老朽化した遊歩道の再整備を実施したほか、石油の里公園内に炭焼き・木工体験施設を整備しました。今後も、約23kmの遊歩道の適切な維持管理のために、里山団体の活動の支援を検討する必要があります。
- 地域と学校パートナーシップ事業では、地域の大人との交流により、子どもたちが認めてもらえる機会の増加がみられ、社会性の育成が図られました。学校では、この事業の推進を図っていますが、地域ボランティア等、地域人材の確保が課題となっています。
- 区内にある地域資源や公共施設の積極的な利用を進め、子どもたちに身近な地域であるという認識を一層深めてもらうため、コミュニティ協議会などとの連携により、ボランティア活動や地域住民との世代間交流を引き続き実施していく必要があります。



菩提寺山遊歩道入口



まちづくりの方針

- ◆脱炭素型社会の実現に必要な人づくりを行うため、学校などにおける環境教育・環境学習の推進を図ります。(再掲)
- ◆秋葉区固有の宝物を子どもたちの学びと育ちに活用し、ふるさとへの愛着と誇りを持ってもらうことで、将来のまちづくりを担う人材を育成します。
- ◆家庭教育の自主性を尊重し、子育て中の親などへ学習機会及び情報の提供を行うことで家庭教育を支援するとともに、参加者同士の仲間づくりを進めます。
- ◆青少年の健全育成を図るため、青少年の体験活動や異年齢交流などを推進します。
- ◆大学・高校や小中学校などすべての教育機関が地域と一体となって子どもたちの成長を支えるとともに、地域課題を共有し、協働により課題解決に向けた取り組みを進めます。
- ◆団体・施設等のネットワークとその連携により、秋葉丘陵の特色を活かした活動・イベントや、より多彩で魅力的な体験プログラムの展開を図って行きます。(再掲)
- ◆ふるさと愛を育むため、地域の自然や施設などを訪ねる校外学習活動を積極的に推進します。
- ◆地域の連携により、子どもたちのコミュニケーション能力や社会性を育みます。



オイルサンド層

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(5) 交通網の整備と持続可能な地域公共交通の確保

現状と課題

- キャッシュレス決済の導入など、区バス利用者の利便性も向上したものの、路線バス・区バスが運行されていない地域など移動手段の確保が必要な地域があります。実態調査などニーズ把握を行い、JRや既存路線バスなどを考慮しながら、区バスの運行ダイヤやルート of 適正化を検討していく必要があります。
- 冬期間の交通確保に向け、地域要望などを考慮し、除雪体制を拡充してきました。また、令和2年度の異常降雪による交通障害を検証し、大雪災害時の除雪体制の見直しを行いました。引き続き体制の維持を図りつつ、自助・共助・公助のもと効率的かつ持続的な体制の充実が必要です。



区バス



国道460号線除雪作業

- 自治協議会において地域と協働で移動手段の確保に向けた検討を行いました。さらに移動手段の確保が必要な地域でのニーズ把握や持続可能な公共交通網の整備に向けた調査・検討していく必要があります。
- 区内の地域間の連携や移動時間短縮を図るため、国道403号秋葉消防署交差点付近や、地域の幹線道路として荻川新津線、結第6号市之瀬線、北浦線、鎌倉横川1号線の整備を行いました。
- 新津西スマートICが完成し、新潟市中心部や北陸道とのアクセス・利便性が向上しました。新潟中央JCT方面への出入口のみのハーフICのため、磐越道の福島方面へのアクセス向上が望まれています。
- 国道403号小須戸田上バイパスの延伸、主要地方道白根安田線・大安寺第5号大関線の歩道整備、主要地方道新潟小須戸三条線の車道拡幅整備を行い、交通環境の改善、歩行者の安全確保、運転の安全性確保を図りました。引き続き、国道403号の4車線化、国道460号の小合バイパスの整備について、検討が必要です。
- 地区懇談会や自治会要望の多い道路改良、側溝整備、舗装新設は、計画的に実施する必要があります。
- 矢代田駅周辺整備関連事業と合わせ小須戸サイクリングロードを整備しました。旧小須戸町の旧新津市境から田上町境界近くまでのJR信越本線沿いに、自転車・歩行者が快適に利用できる道路空間を確保できました。



小須戸サイクリングロード

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(5) 交通網の整備と持続可能な地域公共交通の確保



まちづくりの方針

- ◆区バスの利便性の向上と利用促進を図り、公共交通機関のPRを行います。
- ◆持続可能な公共交通を目指し、交通事業者、関係団体や地域と連携を深めながら、新規利用者の拡大を図るとともに地域の実情に応じた日常生活に必要な移動手段を検討します。
- ◆路線バス再編を踏まえ、主要な区中心部や公共交通結節点につながる幹線路線を中心に、交通事業者、地域と共に、より便利なバス路線網の構築を検討します。
- ◆現在施工中の新潟中央環状線や小須戸橋の架け替え等の進捗状況を踏まえながら、国道403号の4車線化、国道460号の小合バイパスの整備について、検討を進めます。
- ◆関係機関と連携を図りながら、通学路などの交通安全施設の整備を進め
- ◆磐越道の福島方面へのアクセス性向上のため、高速道路や国道などの既存のインフラ施設の利活用を検討します。
- ◆冬期間の交通確保のため、除雪体制の拡充を図ります。
- ◆地元要望に対応した道路改良、側溝新設、舗装補修などを、緊急性の高い所から計画的に実施します。



新小須戸橋 (イメージ)

目指す区の姿

II やさしさがあふれる楽しく元気なまち

(6) 協働によるまちづくり

現状と課題

- 地域課題解決に向け、区自治協議会委員が自ら、提案事業を実施してきました。今後自治を深化させるためには、さらに自治協議会の認知度を高め、活動を活性化させる必要があります。



403号フラワーロード植栽

- 地域力と市民力を活かす自立したまちを目指し、コミュニティ協議会と協働で地域課題の解決を探る地区懇談会を開催し、区民の声を区政に反映させました。コミュニティ協議会や自治会・町内会の自主的活動を支援し、地域住民主体による地域づくりの推進が図られました。今後は、コミュニティ協議会などとの連携をさらに深めるとともに、福祉や学校関係者なども含め、地域づくりに関わる関係者との協働によるまちづくりを推進する必要があります。

- コミュニティセンターなどの施設を地域活動の拠点として機能充実を図る必要があります。
- 地域と学校パートナーシップ事業では、地域教育コーディネーターを各学校に配置し、学校の教育活動が充実したほか、地域住民にとっても生涯学習の発揮の場や仲間づくり、地域づくりにつながりました。学校運営協議会と連携し、地域総がかりの教育について更なる啓発を行い、地域の子どもは地域で育てる気運の醸成を図っていく必要があります。



自治協議会ワークショップ



まちづくりの方針

- ◆自治の深化に向け、自治協議会の認知度をさらに高めるとともに、更なる協働の推進を図り、地域課題の解決に取り組みます。



自治協議会提案事業「ひな・お宝めぐり」

- ◆コミュニティ協議会やNPO、ボランティア団体などとの連携を図り、協働のまちづくりを推進します。
- ◆市民団体が自主的・自発的に取り組む公益活動を支援します。
- ◆学校と社会教育施設、地域との様々な活動を結ぶネットワークづくりや協働事業などを拡充し、地域総がかりの教育をさらに推進します。
- ◆区教育ミーティングを開催し、地域の声を教育行政に反映させます。
- ◆地域主体のコミュニティづくりと地域を支える人材・団体の育成に努め、学・社・民の融合により地域全体による子どもの学びにつなげます。

目指す区の姿

Ⅲ 歴史と個性を活かすまち

(1) 歴史ある文化や宝物の積極的な情報発信

現状と課題

- 国の史跡に指定された、石油の里公園「新津油田金津鉱場跡」の遺構の保全・整備に努めてきました。石油の世界館周辺は石油採掘に使われた産業遺産が数多く残っているため、区民と協働しながら、秋葉区の石油文化を新潟市の地域資源の一つとして、さらに普及啓発していく必要があります。
- 区内に点在する文化遺産の有効活用に努め、区外に積極的に情報発信していくことが求められています。
- 令和元年に開所した新津駅前の「あ！キハ観光案内所」を観光の基軸にすえ、鉄道文化のさらなる深化を進めてきました。今後も、鉄道の関連団体などとの連携をさらに強固にするとともに、魅力ある情報発信を継続していく必要があります。



S L ばんえつ物語

- 江戸時代から花き・花木の栽培が盛んに行われ、鉢花の一大産地となっており、日本で初めて商業用の球根栽培を始めた歴史があります。近年は、消費減少のなかで、生き残っていくために、売れる商品、売れる仕組みづくりが求められています。



まちづくりの方針

- ◆区だより、ホームページ、SNSやコミュニティFMなどを活用し、地域固有の優れた資源を積極的に活用するとともに情報発信します。
- ◆秋葉区内の個性豊かな文化・宝物の利活用や情報発信について、区内の施設が連携し、一体となって取り組みます。
- ◆国の史跡がある石油の里公園を近代エネルギー産業の発祥の地として、さらに将来の脱炭素社会について考えるための場ともなるように、保全と整備を進めて情報発信します。
- ◆鉄道文化の継承と県内外へ情報発信するため、JR新津駅、新津鉄道資料館、にいつ鉄道商店街、新津観光協会などと引き続き連携していきます。
- ◆今後も新品種の作出が重要なため県園芸研究センター連携し、育種状況や今後の方向性など協議を進めていきます。



新津油田金津鉱場跡 C3号井



満願寺稲架木並木

目指す区の姿

Ⅲ 歴史と個性を活かすまち

(2) 個性を活かした交流のあるまちづくり

現状と課題

- 新津観光協会を通じて、地域の伝統芸能の活動を支援するなど、イベントへの地域団体の参画機会を創出してきました。
- 弥生時代の環濠集落や県内最大の円墳が復元整備されている国史跡「古津八幡山遺跡」と「新津油田金津鋤場跡」について、情報発信を推進し、来訪者の増加を目指す必要があります。
- 史跡古津八幡山弥生の丘展示館、県立植物園などの関係機関と連携しながら、花と緑のふるさと公園において「にいつ花ふるフェスタ」を実施してきました。立地的に集約していることを活かした相乗効果の高い一体的な広報を行っていくことが課題となっています。
- 観光ボランティアガイドによる、様々な文化・観光施設を結び付けた案内を実施しています。引き続き、観光ボランティアガイドの養成を行う必要があります。
- 文化遺産や、個々の学びを発信し、まちづくりにつなげる方策を検討する必要があります。



新津夏まつり



小須戸燈籠押合いまつり



まちづくりの方針

- ◆集客力のある地域のまつりや伝統芸能などを観光資源として活用します。
- ◆花産業、鉄道、石油産業遺産、町屋といった秋葉区の個性を活かし、さらに区内の観光関連施設などと連携し、魅力ある観光資源としてさらに磨き上げます。
- ◆史跡を適切に保全し、次世代へと確実に伝達していくために保存活用計画に則して史跡の保存活用を行っていきます。また、未指定地の追加指定を目指し、史跡周辺の確認調査を継続して実施します。
- ◆各地に残された有形・無形の文化遺産を保存・継承し、それらを地域づくりに活用します。



ポンピングパワー1号機



新幹線とC57

目指す区の姿

III 歴史と個性を活かすまち

(3) 文化の継承と創造による文化活動の振興

現状と課題

- 様々な文化・芸術事業を通じて、文化会館が地域のまちづくり・ひとづくりの中心的役割を担えるよう運営していくとともに、更なる文化活動の活性化と文化を創造する人財の育成を進める必要があります。
- 秋葉区内の芸能部門の成果発表の機会を提供することで、創作意欲の向上と地域文化活動の推進を図りました。
- 秋葉区内の美術愛好家の作品発表の場を提供することで、創作意欲の向上と地域文化活動の推進を図ってきました。
- 区民と協働しながら、地域固有の豊かな自然環境や文化資源をテーマに、学習活動への取り組みを進める必要があります。



(c)yoshitaka

あるていすと 劇場企画『MOMO』@秋葉区文化会館



まちづくりの方針

- ◆ 文化会館を核とした文化活動の振興を図り、新たな文化の創造を進めます。
- ◆ 各地に残された有形・無形の文化遺産を保存・継承し、それらを地域づくりに活用します。(再掲)
- ◆ 地域の芸術、地域資源を活かした学習活動を推進します。

(4) 健康で豊かなスポーツ活動の振興

現状と課題

- 区民の生涯スポーツ、競技スポーツの拠点である総合体育館を、競技力の向上、スポーツ人口の増加、健康づくりなどの中心的役割を担えるよう運営していく必要があります。



フットサル大会

まちづくりの方針

- ◆ 総合体育館を核としたスポーツ活動の振興を図ります。
- ◆ 多様なスポーツ需要に応えられるようにするため、区内スポーツ施設の機能点検を定期的を実施し、計画的な整備を検討します。
- ◆ 各種スポーツ大会を各競技団体と連携して開催するとともに、地域に根差した生涯スポーツの振興を図り、事業の普及のため、各種の教室・講習会などの充実を図ります。
- ◆ ジュニア育成と競技力の向上を図り、各種大会の開催と一環指導の確立、競技間の相互交流を進めます。
- ◆ スポーツや健康づくりの相談体制を整備するとともに、運動と健康がつながるまちづくりを推進します。

目指す区の姿

IV 可能性を生み出し・育て・活かすまち

(1) 産業の振興

現状と課題

●新津商工会議所、小須戸商工会への支援や空き店舗対策、秋葉区独自の地域資源を活かしたまちづくりを協働で支援してきました。今後も引き続き、新津商工会議所、小須戸商工会や農商工関連団体などと連携し、時代のニーズに応じた支援や活性化対策を講じていく必要があります。



アザレア生産ハウス

●秋葉区は、米をはじめ野菜、果樹、花、畜産にも取り組んでいます。米の収入に依存する割合が非常に高く、需要変動により所得が不安定になりやすい状況です。また、高収益作物の栽培には、労働力の確保が必要です。

●県園芸研究センターと花き出荷組合内のアザレア部会と連携し、育種状況や今後の方向性など現物の評価を継続し、意見交換を行っています。今後も新品種の作出が重要なことから、県園芸研究センターと農業者との関係性維持が重要であり、品種の維持のため生産販売計画を策定し販売促進を図っています。



もち麦収穫



まちづくりの方針

- ◆商工会議所・商工会などと連携し、地域経済の活性化を図ります。
- ◆今後も、農業経営の改善に意欲的な農業者を、国・県・市の各種補助事業による支援を行い、所得確保に努めます。
- ◆県園芸研究センターと連携して品種改良などの研究に努めます。
- ◆農業関係機関と連携して品種改良などの研究に努めます。
- ◆区の産業の活性化と雇用の場の創出に努めるとともに、ハローワーク新津と連携した取り組みを進めます。
- ◆脱炭素社会構築の取り組みと秋葉区の社会的課題を解決する取り組みを結びつけ、デジタル技術などの先端技術の活用を推進することで、新たな産業や付加価値を生み出し、まちの活力につなげます。さらに、そのプロセスの中に、地域内で資金を循環させ地域の活力向上を目指します。(再掲)
- ◆秋葉区ならではの豊富な食材、優れた人材、脱炭素技術、交通インフラを最大限に活用し、多種多様な企業や人材が協業・共創するための環境を整え、新規企業の誘致を推進します。

目指す区の姿

IV 可能性を生み出し・育て・活かすまち

(2) 全国屈指の園芸産地の魅力発信と環境にやさしい安心・安全な農作物の供給

現状と課題

- 首都圏や遠方市場で、花き・花木の産地PRを行っています。PR活動による効果が見えづらいところもありますが、市場関係者からのニーズを捉える絶好の機会となっています。
今後、高齢化が加速する中で、担い手の確保は非常に大きな問題です。加えて後継者がいない農業者も増加しており、栽培技術の円滑な継承が深刻化して行くことが考えられます。
- 化学肥料や化学合成農薬を5割以上低減する取組と合わせて行う、地球温暖化防止や生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援しています。今後は、農業者の離農等により環境保全型農業の面積が減少していくことが考えられます。
- 圃場整備事業をはじめ、農道整備や排水路整備について、関係機関と連携して年次的に取り組んできました。



大麦（秋葉の里 白雪もち麦）



ボケ



まちづくりの方針

- ◆全国屈指の花き・花木のさらなる販路拡大を農業者・農業者団体と一体となって取り組みを推進し、新規就農者へ技術および知識の習得や意欲ある担い手が安定して営農継続できる環境整備を行うなど、多様な担い手を確保・育成に努めます。
- ◆農産物のブランド化、環境保全型農業の推進や機械化体系が確立した高収益作物の導入支援に取り組めます。また、農産物直売所の取組を支援し、秋葉区産農産物を選んでもらえる消費者（応援団）の増加に努めます。
- ◆圃場整備事業を行い、農業生産基盤を強化します。
- ◆みどりの食料システム戦略の方向性を踏まえ、脱炭素化を進めるとともに、環境負荷を低減した農業生産を推進し、持続可能な農業の実現に努めます。
- ◆環境負荷の少ない農業の実現に向け、化学合成肥料・化学合成農薬の低減とともに、堆肥を利用した土づくりのほか、水田での中干しの期間延長や秋耕などを推進し、土壌への炭素貯蔵や地球温暖化防止の取組に努めます

目指す区の姿

IV 可能性を生み出し・育て・活かすまち

(3) 新潟薬科大学、商店街などとの連携

現状と課題

- 新潟薬科大、新潟商工会議所と連携して「まちなか活性化実行委員会」を組織し、「まちなか」「健康」「里山」の各部会の取り組みにより産学官連携によるまちなか活性化、健康づくり、里山の魅力発信を有機的に結び課題解決に向けた取り組みを行ってきました。引き続き連携を強固なものにして、取り組みのさらなる深化を図る必要があります。

まちづくりの方針

- ◆新潟薬科大学、商店街、地域との連携をさらに進め、農商工連携と産学官連携による企業の誘致を支援します。
- ◆秋葉区の優位性を最大限に活かし、地元の大学等と更なる連携を図りながら、次世代へ向けた新しい技術や産業を生み出し、新たな可能性が育つまちを目指します。

(4) 関係人口の拡大と移住促進

現状と課題

- 新型コロナウイルス感染症の流行により、生活様式や社会活動が変化しデジタル化が急激に進み、テレワークやオンライン会合の増加により一部職種では、地方でも十分に首都圏と同様に働けるようになり、地方移住への関心の高まりにつながっています。
- 秋葉区への移住・定住に関心を持つ方が一元的に情報収集ができ、気軽に相談できるような体制づくりや、それをサポートする関係団体からなるネットワークの構築が必要となります。
- 様々な分野で急速にデジタル化が進む中で、地理的な制約、年齢、性別、障がいの有無等にかかわらず、誰もがデジタル化の恩恵を実感できるよう支援していく必要があります。
- 地方移住の関心が高まるなか関係人口の拡大を図るため、起業を希望する個人事業主や地方でのテレワークを希望する人が活動できる場所の確保が必要です。



まちづくりの方針

- ◆区内で活動する民間団体と協働して、空き家・空き部屋や空き店舗を活用して、コワーキングスペースやシェアオフィスを確保し、テレワークを進める起業や個人事業者を呼び込み、関係人口の増加へつなげ、個人事業者のネットワーク化を目指します。
- ◆移住を希望する方の窓口として、移住相談デスクの設置とコンシェルジュの配置を行うことで、積極的な情報発信ときめ細やかな移住相談など総合的なサポートを行います。
- ◆脱炭素社会構築の取り組みと秋葉区の社会的課題を解決する取り組みを結びつけ、デジタル技術の活用を推進することで、新たな産業や付加価値を生み出し、まちの活力につなげます。さらに、そのプロセスの中に、地域内で資金を循環させ地域の活力向上を目指します。(再掲)
- ◆秋葉区ならではの豊富な食材、優れた人材、脱炭素技術、交通インフラを最大限に活用し、多種多様な企業や人材が協業・共創するための環境を整え、新規企業の誘致を推進します。(再掲)



第四章

アキハスムプロジェクト



AKIHA
SUMU
PROJECT

アキハスム
プロジェクト





アキハスムプロジェクトのロゴデザイン

プロジェクトのロゴマークでは、AKIHA が集まり、立体化する事で、魅力を捉える視点とともに、「住む」の象徴である家、そこから生まれる嬉しさや誇りを表しています。

「アキハスムプロジェクト」との関係

秋葉区が取り組む、「アキハスムプロジェクト」は「住む」という視点で捉えた秋葉区の6つの魅力(里山・食・花・鉄道・川・歴史)を挙げ、これらを立体的にデザインすることで、秋葉区に「住む」価値などを提案し、移住・定住の促進を図る。住んでいる人も・住んだ人も「住んで良かった」と思えるプロジェクト。

区ビジョンに掲げる目指す区のすがた、それを実現するあらゆる施策・事業のすべてがアキハスムプロジェクトが掲げる理念の実現を果たすものであり、秋葉区の魅力向上と地域アイデンティティの醸成を目指します。



アキハスムプロジェクト
特設ホームページ



Akihaマウンテンプレーパーク



里山と水に囲まれて
花と緑あふれる
笑顔咲きそろうまち

秋葉区 区ビジョンまちづくり計画(令和5年3月)

【編集・発行】新潟市秋葉区役所地域総務課

〒956-8601 新潟市秋葉区程島2009番地

TEL:0250-25-5672 FAX:0250-22-0228

E-mail:chiikisomu.a@city.niigata.lg.jp

ホームページアドレス:<https://www.city.niigata.lg.jp/akiha/>

